

安全への取り組み

両備グループ安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は、「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指して頑張ることを宣言します。

両備グループ代表 小嶋 光信

活動方針

両備グループ安全マネジメント委員会を中心に、労使参加で、より現場に密着した効果的な活動を展開し、目標である「日本一安全な運輸企業」を目指します。

※SSP-UP=S=safety&security(安全), S=service(サービス), P=productivity(生産性)

安全方針

- 1 安全運航を第一とし、法令順守し、基本に忠実に日々業務を遂行すること。
- 2 船舶の整備を的確に行い、日常点検を厳正に行なうこと。
- 3 点呼において、日々安全への啓蒙、関心を高めること。
- 4 教育を通じて安全意識を常に涵養すること。
- 5 万が一重大事故の場合、人命尊重を第一に対処し、速やかに上司、関係機関への連絡をとること。

2020年度安全重点施策

- 1 始業点検・定期点検を的確に行い早期発見・安全確保。
- 2 運航可否の判断の適切な実施により、気象悪化・自然災害に伴う事故をゼロにする。
- 3 安全確認、入港前の後進テストを実施し、慎重な操船で海難事故をゼロにする。
- 4 安全管理規程を再熟読、再理解し無事故達成。
- 5 船内巡視の徹底による旅客の安全確保（火災防止、転落防止）。
- 6 アルコール検知器による飲酒チェックの徹底。

アルコールチェックの厳正な実施

船員法施行規則改正に合わせ、2020年4月より安全管理規程を変更し、新たなチェック体制を整えました。



ブリッジ内へのドライブレコーダーの設置

操船事故の防止に向け、2020年5月よりブリッジ内撮影用カメラを全ての船舶に設置しました。



各種訓練の実施

重大事故を想定し、乗組員並びに陸上職員が冷静かつ的確に行動できるように、関係機関と合同で様々な訓練を実施しています。

1 テロ対策訓練



2 火災消火訓練



3 避難誘導訓練



4 機器故障非常時訓練



安全教育の実施

運航管理者や乗組員に対し、社外講師を招聘してセミナーを開催する等、運航管理に関する知識、意識の向上を図っています。



内部監査の実施

フェリーユニット各社の運航管理者で構成された監査チームによる相互監査（クロスチェック）で、現行の安全管理体制の適合性・有効性の確認、基本的なPDCAの確認を毎年1回行っています。

ヒヤリ・ハット事例分析

ヒヤリ・ハット情報を一元管理し、収集した情報を基に自社の「傾向と対策」をまとめ、毎月1回の安全マネジメント会議にて共有しています。